

令和5年度事業報告（抜粋）

（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

○全般の状況

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月に2類感染症から5類感染症に引き下げられ、経済活動の正常化が進み、東海道新幹線の令和5年度輸送量は対前年度比較で125%となっています。こうした状況のもと、当社はJR東海の計画に沿って着実に工事を進め、社員と協力会社が一体となったチーム双葉で鉄道インフラメンテナンスの役割を果たすとともに、異常時には速やかに対応して、安全・安定輸送に貢献しました。

○事業部門別の状況

○軌道部門

JR東海の計画に沿って、橋まくらぎ更換やロングレール更換の工事が減少しました。一方で、むら直しの工事量の増加やその他の工事をおおむね計画どおりに工事を進めて、品質の良い線路づくりに貢献しました。

令和6年4月から建設業に対して働き方改革関連法が適用されることから、年間を通して軌道協力会社ごとの週1回、隔週2日の休工日を作業計画で設定するとともに、保守用車従事員の就労時間短縮を試行しました。また、将来的な働き手不足が見込まれることから、機械施工の実用化を積極的に推進し、新幹線の橋まくらぎ区間に対応した改良型ロングレール更換機の実用化、在来線用のロングレール更換機使用により、施工を効率化しました。

○土木部門

大規模改修工事の減少が見込まれる中、新横浜地区の脱線・逸脱防止対策工事を積極的に進め、おおむね計画どおりに工事を進めました。令和5年6月に発生した大雨の影響による新富士地区のり面変状に対して、応急復旧・恒久対策工事に尽力し、安全・安定輸送に貢献しました。

安全面では、工事におけるリスクを抽出し、排除・低減することを目的に、本社と他地区センター、協力会社による現場相互点検を実施しました。

業務の改善では、ICTの活用による業務効率化として、モバイルPCを配備し、工事管理と並行しながら報告書作成などの業務をできるよう整備するとともに、iPhoneカメラによる遠隔での社内出来形確認及び発注者との出来形検測を実施しました。

○事業部門別の売上高、受注高

（単位：百万円）

| 部門 | 売上高 | 受注高 |
|----|--------|--------|
| 軌道 | 11,313 | 20,599 |
| 土木 | 8,647 | 13,904 |
| 合計 | 19,961 | 34,503 |